17,11,28

31)

e

19

術研究所で行った研究

また、NHK放送技

センター(CiNe いるのである。 t) では、無意識が支 与えることを明らかに 脳情報通信融合研究 Ci

でわかってきている。 ことが、最新の脳科学 自分の「意識」とは別 とんどいない。しかし、 とに疑いを持つ人はほ に、脳が活動している 無意識でいる間も脳は 自分が自分であるこ 得ない研究結果に出く とに疑いを持たざるを も自分が自分であるこ 究していると、そもそ の行動や脳の活動を研 行った研究では、 わすことが多くある。 研究を進めている。 我々が以前、米国で そうした無意識の人

覚や行動に反映させて さまざまな情報を処 統合し、自分の感 を与えることを発見し 行動に少なからぬ影響 識の情報が自分たちの た。さらに、そうした

塑性にも大きな影響を 無意識の情報が脳の可 の映像を見ていると、 ーハイビジョンなど) ー(4Kや8Kスーパ なくても、立体感を高 解像度の変化はわから い高解像度ディスプレ 無意識なのに、自分

めることを発見し、そ らも、あずかり知らな に影響?無意識なの れる人間の姿である。 無意識も含めた個人の い情報や刺激に翻弄さ に、脳は反応?どち うにもかかわる重要な 問題として今後重要性 社会に還元することを が増してゆく。 脳科学研究の成果を

して、脳の特定の領域 在り方はどのようにあ から社会と接点を持つ 究開発は、基礎的段階 目指すCiNetの研

時宜にかなっている。

者や技術者が集まり、 る。異なる分野の研究 制御する技術について 配する脳情報やそれを

ることはやらない、がモットー。認知心理学者。 術研究所などを経て、15年より現職。予想でき ―ド大、独レーゲンスブルク大、NHK放送技 米ボストン大大学院修了、Ph. センター研究員
当馬脳情報通信融合研究っしま D。米ハーバ



要である。この観点か て進めて行くことが重 ックス事業への参画は いはんな地区で進めて (JST)が関西の、け ら、科学技術振興機構 いるリサーチコンプレ in(脳情報科学)とI ココロの豊かさを求め CTの技術を駆使し、 会の構築を目指してい オート)」スマート社 て、これまでにない 「超快適(メタコンフ そこでは、1-Bra

月5日から電磁波研究

(この項おわり。

す場所がありそうだ。 識」の研究成果も生か り組んでいる。「無意 人のココロの問題に取

わっていることを明ら な課題に留まらず、人 がそうした活動にかか るべきか。単に哲学的 間の日常生活のありよ 譕 意識 意識

無意識でも脳は情報を処理、 統合し、感覚や行動に反映さ せている (イメージ)